

# 創立50周年のあゆみ

社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会



社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会  
Japan Business Machine and Information System Industries Association



# 社団法人ビジネス機械・情報システム 産業協会50周年記念誌発刊によせて



社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

会長 町田 勝彦

当協会の前身である日本事務機械工業会は1960年に設立され、その後事業分野の拡大に伴い、ビジネス機械・情報システム産業協会として発展をする中で、本年2月に創立50周年を迎えることができました。

これもひとえに、会員企業の皆様の多大なご努力を始め、協会の基礎を作り様々な活動を通じて協会の発展にご尽力いただいた先輩諸氏、関係官庁、関連団体、そして今まで支えていただいたユーザーの方々の暖かいご支援の賜物であり、改めて厚く御礼申し上げます。

この50年を振り返りますと、事務機械産業は幾多の変遷を経てきたものの、設立された1960年に114億円であった産業規模は、最大規模となった2007年度には2兆円近くに達し、実に当初の規模に比べて170倍もの拡大を遂げており、事務機械産業に携わる会員各社の努力の賜物であったと思います。1960年代は政府の振興策に支援されて事務機械産業の基礎作りに取り組んだ時代、1970年代はオイルショックをはじめとする幾多の困難に直面した激動の時代でありましたが、エレクトロニクス化の波を先取りすることで飛躍的に発展を遂げ輸出産業としての地位を確保、1980年代には、欧米諸国と通商摩擦が生じたことを受け、海外での現地生産の拡大などグローバル化を進めて参りました。

1990年代は、バブル崩壊という長期景気低迷があったものの、デジタル化・ネットワーク化などの劇的な技術革新により事務機械は事務情報機器へと変貌を遂げ大きく伸張しました。2000年代に入り、インターネットの普及やカラー化への動き、及び低炭素社会への動きにいち早く対応するなど、めまぐるしい技術革新とグローバル化に乗り遅れることなく、常に時代の最先端を走りつづけ、今日を迎えております。

さて、今般、50周年記念事業の一環として「ビジネス機械・情報システム産業協会50周年記念誌」を編纂する運びとなりましたが、先輩諸氏のご努力の足跡をたどる記録としての役割はもとより、事務機械産業がこれからの50年をどう進んでいくべきかの道しるべとして参考にして頂くべく、いくつかの取り組みを行いました。

昨年12月には各社のご協力を得て、正副会長会社トップによる座談会を開催し、これまでの50年を振り返るとともに様々な視点からこれからの事務機械産業の未来展望を熱く語り合いました。又、「こんなオフィスで働きたい！未来の快適エコオフィス」をテーマに、50周年記念懸賞論文を公開募集し、多数のアイデアを頂戴しました。座談会では、これからの事務機械産業のフォーカスすべきポイントとして「ワークスタイル変化への対応」や「ICT技術の革新によるソリューションビジネスの拡大」などが取り上げられ、また懸賞論文では、「フレキシブルなオフィス環境・インフラの実現による快適エコオフィス」や「オフィスと自然との融和によるエコオフィス」など示唆に富む多くの提案をいただきました。双方とも記念誌に掲載させて頂いておりますので、会員皆様にとってこれからの事業展開の方向性を見出すきっかけになれば幸甚です。

最後に、本記念誌編纂に当たられました関係者のご努力、及びご支援いただいた関係各位に感謝の意を表し、発刊のご挨拶とさせていただきます。

# 社団法人ビジネス機械・情報システム 産業協会50周年記念誌発刊によせて



経済産業大臣  
直嶋 正行

この度、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会が創立50周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

貴協会は、我が国が戦後の復興から本格的な経済成長へ転換を始めた昭和35年に日本事務機械工業会として発足されました。設立からの50年間、事務機器の技術革新は、我々のオフィス環境に大きな変化をもたらしてきました。

2002年に現在の「ビジネス機械・情報システム産業協会」に改称されてからも、情報化・ネットワーク化に対応し、新しい需要を創出し続けてこられました。今後も、我々のワーキングスタイルの改善をリードしていかれることを期待しております。

今、アジアを中心とした新興国市場が急成長をとげつつあります。我が国は、世界に開かれた国を目指し、ヒト・モノ・カネの流れを倍増させ、我が国の高い技術を活かしながら、アジアの成長を取り込んで、大きく成長していかなければなりません。我が国がアジアの拠点として新たな成長を実現していくため、国際標準化活動の推進や省エネルギー機器の開発を通じた需要の創出など、皆様のチャレンジを経済産業省としても応援していきたいと考えております。

最後になりますが、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会並びに我が国事務機械産業の一層の発展を祈念し、私のお祝いの言葉といたします。

# 社団法人ビジネス機械・情報システム 産業協会50周年記念誌発刊によせて



社団法人電子情報技術産業協会

会長 大坪 文雄

社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会が創立50周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

貴協会は、1960年に「日本事務機械工業会」として設立され、2002年にビジネス機械・情報システム産業協会に改称されて今日に至るまで、常にその時々時代の要請に応え、50年の長きにわたり事務機械産業の振興と発展に多大に貢献されてきました。今日の事務機械業界の発展は貴協会の会員並びに関係者の多大なるご尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第です。

戦後間もない時期は事務機械の大半が輸入品でしたが、その後、わが国の事務機械産業は目覚ましい発展を重ね、世界をリードする産業へと変革を遂げられました。特に、情報化、デジタル化、ネットワーク化の進展は事務機器に大きな変化をもたらしております。単に事務の合理化・効率化にとどまらない経営改善の重要なツールとして、事務機器の役割は年々拡大しており、それに伴って貴協会の果たすべき役割もまた、ますます重要となっております。

私ども社団法人電子情報技術産業協会は、電子機器・電子部品分野の業界団体として、21世紀のデジタルネットワーク時代を切り拓き、誰もが豊かな生活を享受することができる社会づくりの一翼を担うことを使命と考えております。

エレクトロニクスの進化とIT（情報技術）の進展により、電子機器・電子部品分野と事務機械産業分野との関係はますます密接になってまいりました。一方で、グローバル化が進む国際社会への対応や深刻化する地球環境問題への対応など、一企業だけで対処できない課題も年々、大きなものとなりつつあります。これらの解決に向けて、両協会が更なる発展を遂げながら、より強く連携していくことが極めて重要な時代を迎えております。

このような中で、貴協会が「創立50周年記念誌」をまとめられたことは誠に意義深いことと存じます。これを契機として、貴協会が今後さらにこの次の50年の発展に向かって進んでいかれますことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

# JBMIA 50th Anniversary Message



President of BITKOM

Prof. Dr. Dr. h.c. mult. **August-Wilhelm Scheer**

The JBMIA today looks back with pride at a tradition of fifty years. At the time when it was founded – in the 1960s – the main focus of the industry was on mechanisation and rationalisation of office equipment. Since then the emphasis has shifted from hardware to software, from office technology to the Internet. What remains, and has, indeed, increased further, is the huge dynamic of technical progress.

After some difficult years recently for the Japanese ICT economy, the future today is again looking more favourable. After the second major economic crisis in the past decade, we are again looking forward to growth in the ICT economy in years to come, also in Japan. That is also important for the global economy, for with a share of the international market of nearly 9 percent in the year 2009, Japan is still, after the USA, the second largest national market for information technology and telecommunication.

In Japan, as in Europe, the ICT industry plays a central role in the transition from the industrial to the information society. We are experiencing today an unparalleled new departure in the Internet economy, with great opportunities for growth, welfare and employment. The JBMIA makes a significant contribution to this major task for society. For five decades the Association has been performing important tasks for the industry as a whole – it informs about markets and technologies, advises policy-makers, co-ordinates research and maintains international contacts.

Over the years, very close and confidential relationships have been established between the JBMIA and its German partner association. High ranking delegations regularly discuss important topics concerning the industry, and exchange experiences. In this respect, both associations are making a considerable contribution to the future capabilities of their respective countries. In an industry which, more than any other, operates on a global level, these efforts can only be successful if strong partners work together on an international level. This is why we want to further strengthen the friendship between JBMIA and BITKOM.

As President of the German ICT trade association BITKOM I offer my heartfelt congratulations to the JBMIA on its 50th anniversary. BITKOM wishes the JBMIA and the Japanese ICT industry a successful future! We look forward to many more years of working together as friends and colleagues.



# JBMIAの創立50周年記念祝辞

BITKOM 会長

オーガスト・ウィルヘルム・シーラ教授

創立以来JBMIAが歩んできた50年間の伝統を回顧し、誇りを感じています。協会が設立された1960年代の、事務機械業界の主な課題は、オフィス機器の機械化と合理化でした。その後、業界の関心はハードウェアからソフトウェアに、オフィステクノロジーからインターネットへと移りました。さらに、大きな力強い技術的な進歩は、今日も続いています。

日本のICT産業における経済状況は、ここ何年かの厳しい時期を経て、再び明るい兆しを見せています。過去10年間、二度に渡る大きな経済危機を経験した世界のICT産業も、再び成長が見込めるようになりました。米国に次いで2番目に大きい市場を持つ日本は、2009年の国際市場で9%のシェアを持っており、日本の回復は、グローバル経済にとって大変重要です。

欧州同様、日本においてもICT産業は、産業社会が情報化社会へ移行する上で、中心的役割を果たしています。今日、我々はこれまで経験してこなかったような規模で、インターネットの発展を経験していますが、同時に、成長や福祉、雇用の大きな機会をもたらしてくれています。JBMIAも、この重要な、社会の課題の達成に向けて、大きな貢献をしてきました。特に、市場や技術についての情報提供、政策立案者への助言、調査活動の促進、国際交流の継続などが、この50年間に行ってきた重要な仕事と言えるでしょう。

これまで、JBMIAと、我々ドイツの産業協会との間には、緊密な信頼関係が築かれてきました。双方がミッションを派遣してこの業界の重要な議題を討議し、経験を共有してきました。こうした点を考慮すると、両協会は、互いの国の将来の可能性を広げるために、大きな貢献をしていると言えるでしょう。グローバルレベルで活動する業界においては、強力なパートナーが、国際レベルで緊密に協力して活動してこそ、初めて努力が実を結ぶことができます。我々が、JBMIAとBITKOMの間の友好関係をさらに強化したいと思っている所以です。

ドイツICT業界団体BITKOMの会長として、私は設立50周年を迎えたJBMIAに心からお祝いの言葉を贈りたいと思います。BITKOMは、JBMIAと日本のICT産業の繁栄を心から願っております。今後も末永く、友人、仲間として共に働けることを切に希望します。